



■閉会の挨拶

理事長 渡辺 郁夫

鉄道総研は、今年度から新しい基本計画 RESEARCH 2025 をスタートさせ、安全性の向上、デジタル技術による鉄道システムの革新に資する研究開発を重点的に推進しており、特に基礎研究は、諸課題解決あるいは革新的な技術の源泉につながる研究と位置付け、積極的に取り組んでいる。基調講演では、これまで鉄道総研が長年に渡り継続的に取り組んできた横風、早期地震警報、微気圧波に関わる基礎研究に加え、現在取り組んでいる、強雨災害、車輪・レールの接触、超電導材料、AIなどの基礎研究について紹介した。続く4つの講演では、防災、車両、電気、施設の各分野の基礎研究への取り組みについて紹介した。横風、早期地震警報、微気圧波などの研究開発成果は、長年続けてきた取り組みが、少しずつ実を結び、鉄道の課題解決につながったものである。研究の成果は一朝一夕に実ることは少なく、地道な蓄積があって初めて成果に繋がる場合が多い。また、多くの知識と経験を分野横断的に集めて、総合的な研究プロセスを経ることで、初めて実を結ぶ研究も多い。鉄道総研は、体制を整え、戦略的に基礎研究をしっかりと推進したいと考えており、大学や外部の研究機関との交流、基礎研究推進のための人材育成など、活性化するための取り組みを進めている。今後も、鉄道事業者、産業界、大学等の研究機関等と一緒に、基礎研究に取り組む。